

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 25 日現在

機関番号：17501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24530877

研究課題名(和文) ライフレビューはどのようなプロセスで展開するのか 高齢者に対する面接事例から

研究課題名(英文) How does a process of the life review develop?: From interview cases to the aged

研究代表者

林 智一 (HAYASHI, Tomokazu)

大分大学・医学部・准教授

研究者番号：70274743

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：介護老人保健施設の協力を得て、健常群と認知症群の2群に対して、10回のライフレビュー面接を行った。事例の考察から次の4点が明らかとなった。(1)ライフレビュー面接10回法は、インテイク期、回顧活性期、休止期、回顧再活性期、収束期の5期を経て展開する。(2)ライフレビューの奏功機序モデルとして、信頼関係の構築、回顧の活性化、視点の移動、認知の再構成、否定的観念と肯定的観念の相対的バランスの5段階を提起した。(3)回顧の主要テーマは、子育てや両親、祖父母、子ども時代、仕事、結婚、自身の死、外地での体験だった。(4)認知症群のライフレビューでは、想起は生じるが評価や総合が見られない。

研究成果の概要(英文)：I got cooperation of a certain geriatric health services facility, and 10 times of life review interview was performed to both healthy elderly and demented elderly. The following 4 points became clear by considering these cases. 1) A way of 10 times of life review interview develops via 5 periods, intake period, recall active period, inactive period, recall re-active period and convergent period. 2) 5 stages of the building of relationship of mutual trust, the activation of a recall, the movement of a viewpoint, the reorganization of recognition and the relative balance of negative concept and affirmative concept were raised as a successful mechanism model of the life review. 3) Child rearing, parents, grandparents, the child age, work, marriage, their death and an experience by overseas were seen as main theme of a recall. 4) In the life review to people of dementia, remembrance formed, but it was the feature to lack the process which estimates and synthesizes that.

研究分野：臨床心理学

キーワード：高齢者 ライフレビュー プロセス 心理療法 事例研究

1. 研究開始当初の背景

Butler(1963)は、ターミナル期の患者や高齢者に過去を回顧するという現象が見られることに注目し、人生の終末期に近づき死を意識することで、パーソナリティの再統合を求めて過去の回顧が活性化するのだと考えた。そして、このような現象をライフレビュー(life review)と名付けた。それは、「記憶の自発的な再来、あるいは記憶の目的ある検索のどちらか一方ではなく、両者がともに生じるものである」(Butler, 1963)と説明されている。具体的方法としては、クライアントの生育史の聴取が中心となる。

ライフレビューが適応的に進展した場合には、より妥当な状況把握がもたらされ、人生に新たな有意義な意味が付与されるという。それは不安を軽減し、人に死の準備をさせる。すなわち、ライフレビューは究極的には Erikson(1963)の個体発達分化の図式における「自我の統合性 対 絶望」という危機の解決にむかうものとなる。

なお、自我の統合性とは、人生の第8段階、すなわち高齢期の心理社会的危機であり、自分の人生に意義を見だし、自身の唯一のライフサイクルをそうあらねばならなかったものとして、またどうしても取り替えを許されないものとして受け入れることである。そのような自我の統合性が得られないと、高齢者にとってすでに人生をやり直す時間もなく、残されるものは絶望や嫌悪感だけになってしまうのである。

さらに、回顧する人の抑うつ感を減じ、生活満足度を高め、家族や古い友人など他者との絆を結び直し、自己を受容し、人と心を通わせあったり、カタルシスが得られたり、人間関係を促進したり、心の平穏が得られたりするなど、ライフレビューによって重要なセラピーティックな効果もたらされるという(Haigt & Haight, 2007)。

しかし、セラピーとしての回想の有用性はあいまいであるとも言われている。それは、回想に関する心理的プロセスが明らかにされていないからである(Watt & Cappeliez, 1995)。

ライフレビューのプロセスについて論じた先行研究はいまだ数少ない(林, 1999)。ライフレビューを提唱した Butler(1963)自身は、「過去の回顧は自我によって調べられ、観察され、意味が生じる。過去の再構成がより妥当な状況把握をもたらす、人生に新たな有意義な意味を付与する。それは不安を軽減し、人に死への準備をさせる」と述べている。

もっとも注目されるのは、この Butler(1963)のプロセスを3段階のモデルにした Webster & Young(1988)である。Webster & Young(1988)は、ライフレビューを 想起: 未解決の葛藤が解決を求めて想起される段階、 評価: 想起された記憶に関して価値判断が生じる段階、 総合: 改訂され推敲された記憶の再統合の段階の3つの段階からなる

と考えた。

そのほか、ライフレビューの奏功機序に関連した研究としては、高齢者の回想のタイプを論じた Wong & Watt(1991)がある。Wong & Watt(1991)は、高齢者の回想に 統合型、 試行錯誤型、 伝達型、 物語型、 現実逃避型、 強迫型の6型があり、成功した高齢者はそうでない者に比べて 統合型と 試行錯誤型が有意に多く、 強迫型が少ないと述べている。

Haigt, Coleman, & Lord(1995)は、セラピーティックな回想の要となるのは、 構造: 人生全体をカバーする回想であるべきである、 評価: 人生の出来事を考察し、評価すること、 個別性: 対一の方法を取ること、の3点であるとした。

Cappeliez, O' Rourke, & Chaudhury(2005)は、回想のさまざまな機能の包括モデルを提示し、回想には3つの機能があるとした。自己: 自己の首尾一貫性、有意義性、連続性を促進すること、 指針: 個人的知識・経験の想起や共有を図ること、 感情: 出会いの中で肯定的感情を体験させること、の3つである(Cappeliez, O' Rourke, & Chaudhury, 2005)。

また、高齢者の語る物語について、Viney(1995)は、 アイデンティティの促進・維持、 いかんにか生きるかということへの指針、 混沌とした出来事に秩序を与える、 他者に聞いてもらうことで力を得る、という4つの力があると述べている。人生の物語とも言えるライフレビューにも、同様の力があると思われる。

これらの研究では、なぜライフレビューがそのような効果を有するのかというメカニズムについて、じゅうぶん解明されていない。回想研究においては、特定の問題に対する回想プロセスの構成要素を明らかにする必要があるという指摘もある一方(Watt & Cappeliez, 1995)、多様な対象者や問題にライフレビューや回想が適用され、相応の効果をあげているという現実もある。

したがって、幅広い問題に共通する、中核的な機能や効果も存在するものと考えられる。いずれにせよ、ライフレビューのプロセスを詳細に検討していくようなアプローチが求められるところである。

プロセスの軽視は、とりわけライフレビューの一種である回想法の効果研究に顕著である。認知症高齢者に対する回想法の効果研究 39 編をレビューした林(2008)は、ほとんどの研究が介入前後の尺度値を比較する研究デザインであったと述べている。しかも、エビデンス構築を志向すればするほどに統制の困難さが目立ち、客観的指標は無効性を示し、結局は主観的観察で有効性を主張するというある種、皮肉な状況が見受けられたという(林, 2008)。

現状の効果研究に欠落しているのは、回想法の中核的機能や奏功機序の解明ではない

かと考えられる。そこをブラックボックスにしたまま、探索的に多種多様な尺度を介入前後で比較して、有意差に汲々とするだけでは心理療法として有効性を論じることには限界がある。この点はライフレビューについても同様である。

## 2. 研究の目的

このような背景から、本研究では、事例研究的にライフレビューのプロセスを詳細に記述し、ライフレビューの促進要因の検討、事例の集積による典型的プロセスのモデル化、奏功機序の分析を行うことが必要であると考へた。個人ライフレビューの事例研究は、我が国では林(1999; 2000)が見られる程度であり、希少な研究となるものと考えられる。

## 3. 研究の方法

某介護老人保健施設の協力のもと、抑うつや認知症のない健常群と、介護認定において認知症が認められた認知症群の2群に対して、週1回50分、計10回のライフレビュー面接を行った。健常群は15例、認知症群は8例を分析の対象とした。また、中断事例も見られたため、そのうち、9回まで面接を実施した認知症群の1例についても呈示した。

## 4. 研究成果

これらの事例を考察することで、以下の6点が明らかとなった。

(1) ライフレビュー面接10回法は、図1のように、「インテイク期」、「回顧活性期」、「休止期」、「回顧再活性期」、「収束期」の5期を経て展開する。

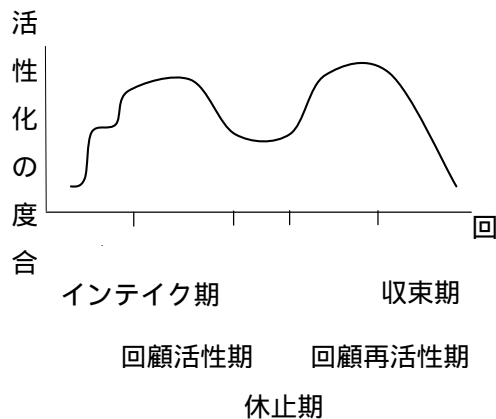


図1 ライフレビュー面接10回法の展開プロセス

(2) ライフレビューの奏功機序モデルとして、図2のような、信頼関係の構築、回顧の活性化、視点の移動、認知の再構成、否定的観念と肯定的観念の相対的バランスの5段階を提起した。

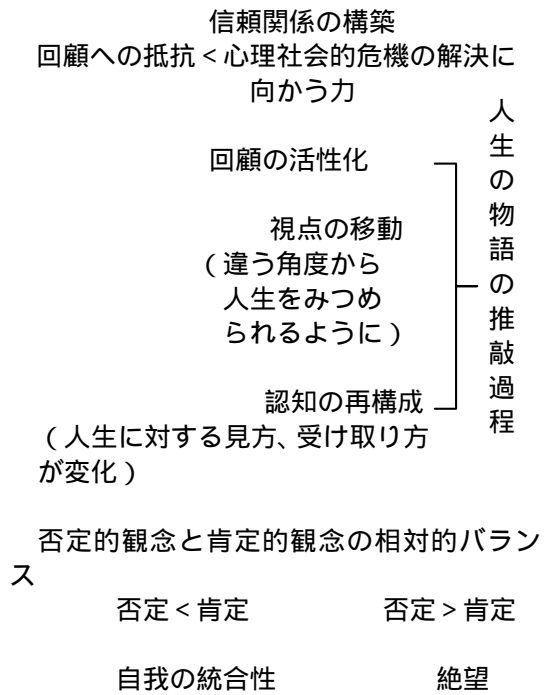


図2 ライフレビューのプロセス・モデル

(3) 回顧の主要テーマとしては、子育てや両親、祖父母、子ども時代、仕事、結婚、自身の死、外地での体験が見られた。

(4) 認知症群に対するライフレビューでは、想起は生じるが、それを評価したり総合したりする過程が欠けていることが特徴として浮き彫りになった。

(5) ライフレビュー面接10回法で有用であった面接技法として、インテイク、質問技法、はげまし技法、いいかえ技法、要約技法があった。

(6) 中断事例の割合には、健常群と認知症群で有意差は見られなかった。

## < 引用文献 >

- Butler, R. N. 1963 The life review: An interpretation of reminiscence in the aged. *Psychiatry*, **26**, 65-75.
- Cappeliez, P., O'Rourke, N., & Chaudhury, H. 2005 Functions of reminiscence and mental health in later life. *Aging & Mental Health*, **9**, 295-301.
- Erikson, E. H. 1963 *Childhood and Society*, 2nd Ed. New York: W. W. Norton. (仁科弥生(訳) 1977 幼児期と社会みすず書房).
- Haight, B. K. & Haight, B. S. 2007 *The Handbook of Structured Life Review*. Baltimore: Health Professions Press.
- Haight, B. K., Coleman, P., & Lord, K. 1995 The linchpins of a successful life review: Structure, evaluation, and individuality. In B. K. Haight & J. D. Webster (Eds.), *The Art and Science of*

*Reminiscing*. Washington, D. C.: Taylor & Francis, pp.179-192.

林 智一 1999 人生の統合期の心理療法におけるライフレビュー 心理臨床学研究 17(4), 390-400.

林 智一 2000 老人保健施設における心理療法的接近の試み 長期入所の高齢期女性との心理面接過程から 心理臨床学研究 18(1), 58-68.

林 智一 2008 回想法は認知症高齢者に対して有効か? 心理療法という観点からの考察 九州心理学会発表論文集 69, 56.

Viney, L. L. 1995 Reminiscence in psychotherapy with elderly: Telling and retelling their stories. In B. K. Haight & J. D. Webster (Eds.), *The Arts and Science of Reminiscing*. Washington, D. C. : Taylor & Francis, pp.243-254.

Watt, L. M., & Cappeliez, P. 1995 Reminiscence interventions for the treatment of depression in older adults. In B. K. Haight & J. D. Webster (Eds.), *The Arts and Science of Reminiscing*. Washington, D. C. : Taylor & Francis, pp.221-232.

Webster, J. D., & Young, R. A. 1988 Process variables of the life review: Counseling implications. *International Journal of Aging and Human Development*, 26(4), 315-323.

Wong, P. T. P., & Watt, L. M. 1991 What types of reminiscence are associated with successful aging? *Psychology and Aging*, 6(2), 272-279.

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

林 智一 2014 日本の高齢者に見られた自我の統合性に関する研究 「こころの生涯学習」のゴールとして 大分大学高等教育開発センター紀要 6, 査読無し, 9-21.

林 智一 2015 高齢者に対するライフレビュー面接 10 回法の臨床的検討 「こころの生涯学習」の支援に向けて 大分大学高等教育開発センター紀要 7, 査読無し, 29-43.

林 智一 2016 認知症高齢者に対するライフレビュー面接 10 回法の臨床的検討 「こころの生涯学習」の向こう側を目指して 大分大学高等教育開発センター紀要 8, 査読無し, 71-85.

[学会発表](計 12 件)

林 智一, ライフレビューの奏功機序に関する文献展望, 中国四国心理学会第 68

回大会, 2012 年 11 月 10 日, 福山大学(広島県福山市)

林 智一, ライフレビュー面接 5 回法に見られた高齢者の死生観 介護老人保健施設通所利用者との面接事例をもとにした臨床的考察, 日本心理臨床学会第 32 回大会, 2013 年 8 月 28 日, パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)

林 智一, 介護老人保健施設デイケア利用者に対するライフレビュー面接 10 回法に関する研究, 日本理論心理学会第 59 回大会, 2013 年 10 月 19 日, 京都文教大学(京都府宇治市)

林 智一, 高齢者に対するライフレビュー面接 10 回法に関する研究, 中国四国心理学会第 69 回大会, 2013 年 11 月 17 日, 山口大学教育学部(山口県山口市)

林 智一, 日本の高齢者の自我の統合性の様態について ライフレビュー面接 5 回法をもとにした臨床的考察, 日本心理臨床学会第 33 回大会, 2014 年 8 月 24 日, パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)

林 智一, 高齢者に対するライフレビュー面接 10 回法の試み ライフレビューの展開するプロセスを中心に, 日本健康心理学会第 27 回大会, 2014 年 11 月 1 日, 沖縄科学技術大学院大学(沖縄県国頭郡恩納村)

林 智一, 認知症高齢者に対するライフレビュー面接 10 回法の試み 介護老人保健施設通所利用者を対象として, 九州心理学会第 75 回大会, 2014 年 11 月 16 日, 宮崎公立大学(宮崎県宮崎市)

林 智一, 高齢期女性にみられた回顧の中の家族像と老いへの適応 ライフレビュー面接 10 回法の事例から, 日本家族心理学会第 32 回大会, 2015 年 7 月 19 日, 山形大学(山形県山形市)

林 智一, 認知症高齢者におけるライフレビュー・プロセスの検討 介護老人保健施設通所利用者の事例から, 日本心理臨床学会第 34 回大会, 2015 年 9 月 20 日, 神戸ポートピアホテル(兵庫県神戸市)

林 智一, ライフレビューの奏功機序に関する臨床的考察 ライフレビューのなにが、どのようにして、どのような結果をもたらすのか, 日本健康心理学会第 28 回大会, 2015 年 9 月 5 日, 桜美林大学町田キャンパス(東京都町田市)

林 智一, 高齢者におけるライフレビュー展開プロセスのモデル化の試み ライフレビュー面接 10 回法の事例から, 日本理論心理学会第 61 回大会, 2015 年 11 月 15 日, 関西大学千里山キャンパス(大阪府吹田市)

林 智一, ライフレビュー面接 10 回法に見られた中断事例の検討 介護老人保健施設通所利用の認知症高齢者の事例から, 中国四国心理学会第 71 回大会,

2015年11月7日, 広島修道大学(広島県  
広島市)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

林 智一 (HAYASHI, Tomokazu)  
大分大学・医学部・准教授  
研究者番号: 70274743

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号:

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号: